



東京都家庭薬工業協同組合会報

かていやく

平成12年1月 通巻66号



かていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

目 次

通巻66号 2000年1月20日

新年のごあいさつ	塩澤 譲	3
新年のごあいさつ	山川洋平	4
新春特集 (1)		
—座談会—		
『インターネット時代を迎えて』		5
新春特集 (2)		
—会員各社メッセージ—		
『これから100年を見据えて』		12
家庭薬ロングセラーハンズ		16
第10回GMP研修見学会レポート		18
委員会だより		20
薬事、GMP、流通、広告、労務、厚生、 消費者対応、情報協業化、広報		
会員会社紹介		
大東製薬工業株式会社		23
追悼／宮川前総務委員長を偲んで		25
家庭薬グラフティー		26
事務局だより		28
編集後記		
表紙題字・第4代理事長 津村重舎		
表紙絵・相談役 堀 泰助		

新年のごあいさつ

良いミレニアム



理事長 塩澤 譲

いよいよ2000年。今年の「明けまして」は、まさに、明けましておめでとうございます、の感が深いものとなりました。皆様方には、お健やかに佳き新年を迎えるましたこととお慶び申し上げます。

昨年中は、当組合の運営につきまして、格別のご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年も、何卒ご高配を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

一昨年末の「変化の胎動も…」「兆しの兆しは…」といった経済判断が、ほとんどそのまま使用できる昨年の末となってしまいました。この処、来る年も来る年も、今年こそと思いながらの迎春。倒産、合併、リストラ等の文字に対応し、消費心理は冷え込むばかりです。株価の上昇も円高とセットとなり、手放しでは喜べないニュースとなってしまいました。不況慣れさえ心配される状況です。産業構造の変化による産業間格差もさることながら、不況の長期化により、企業間格差が顕著となりつつあります。

私どもの業界は、医薬情勢の変化に加え、この経済情勢の変化への対応をも余儀なくされています。たとえば、電話の5,000万台普及に要した期間が60年、これに対し、携帯電話は8年、インターネットは5年で到達しています。誰も予想できなかつたことが現出しています。

また、ミレニアム以降の時代においては、旧来のビジネスモデルが通用しない、とさえ言われる程に、将来像は曖昧な像となっています。しかし、模倣とした状況の中においても、何ら変化がないのが、セルフメディケーションの担い手としての我々の使命です。我々には、安全で有効性の高い医薬品を恒常に供給するという、重大な義務と責任が課せられています。あらゆる機会と方法を通じて、長い伝統に裏付けられた家庭薬の特徴を訴求し続ければ、我々の地位は維持されるものと考えます。

歴史を繙いてみても、我が日本人は「大変な困難」に強い民族です。苦境に立てば強くなり、楽園にあれば怠け心に支配される。人というものは、そういうものかもしれません、特に日本人はこの傾向が顕著なような気がします。この苦難の時代の次の時代は、想像もつかないような、暖かい光が満ちている。苦難の中でミレニアムを迎えた、という事実が、むしろ後世の人々の発展に資するところになる、そんな風に想います。

本年も、組合員の皆様のご協力をいただきながら、その英知を結集し、多岐にわたる事業を進めていきたいと思います。旧年に倍しましてのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(養命酒製造株式会社 社長)

新年のごあいさつ

新年を迎えて



東京都衛生局薬務部長
山川洋平

新年あけましておめでとうございます。東京都家庭薬工業協同組合の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年中は、東京都の薬務行政には格別のご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

西暦2000年は、辰年で龍、竜の付く生薬原料を探すと、植物では竜眼、竜葵、竜珠、竜胆、竜脳など、また動物では、龍、竜盤魚、タツノオトシゴ、地竜など数多くあります。私でも竜胆、タツノオトシゴ、地竜は現物を見、承知していますし、家庭薬の中に使用されています。また、龍は地域によっては悪役だったり、神聖な動物だったりさまざまなようです。

さて、今年は20世紀の最後の年になりました。この1世紀は戦争時期を除けば、我が国にとって産業や経済が右肩上がりの「富める日本」を続けてきました。しかし、バブル崩壊後、社会経済状況は低迷し、本格的な少子高齢社会の到来と変革期に突入してきました。一つの時代が終わり、新たな時代が始まろうとしている中、情報化、グローバル化による社会の変化は想像を超えて早く、複雑になってきています。一見穏やかな変化と思っていても、気が付いたときには結果が目前まできています。取りあえず最低限度のことは

政治や行政に頼らず、自分のことは自分で守ろうという意識が高まっているように思います。そのような中でも、健康については一番関心が高い分野なのではないでしょうか。

特に最近、駅ビルやデパートの一角に昔懐かしい伝統薬コーナーが出現し、コンパクトな包装はファッショナブルで中・高校生に受けています。また、私のような中年も過去の哀愁に誘われて、つい購買意欲をかき立てられます。古くていいものを守る社会現象は永遠に忘れられない日本の文化の承継です。古来より親しまれ、頼られている伝統薬である家庭薬は、副作用も少なく、有効性にも優れ、根強い人気があります。新薬、医療用医薬品は、最先端の医療現場ではこれもまた不可欠なのですが、同時に家庭で使用する大衆薬や伝統薬を適切な服薬指導のもとで症状にあわせて使用することも大事な医療です。私はこれから医療において大衆薬や伝統薬が再び見直され、希望の持てる21世紀を予想しています。

都といたしましても、医薬品の製造、販売を通じて皆様と一緒に良質なものを都民に提供できるよう努めてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新春特集 (1)

インターネット時代を迎えて

秋山泰伸氏（秋山錠剤株式会社 代表取締役社長）

大泉高明氏（株式会社大和生物研究所 代表取締役社長）

藤井隆太氏（株式会社龍角散 代表取締役社長）

司会進行：伊沢隆司（東京都家庭薬工業協同組合広報委員会・委員長）

平成11年11月11日 於：東京都家庭薬工業協同組合会議室

米国では、処方せん薬をインターネット上で販売する「オンライン薬局」が相次いで登場しているという。ネット上で注文を受けた薬剤師が、医師などに確認問い合わせの上、薬を処方して郵送するか、患者が直接薬局に出向くというシステムになっている。

日本でもここ数年、インターネット人口が急増。家庭での利用を見込んだ、比較的安価で操作が簡単なデスクトップパソコンも続々と登場してきている。電話料金の高さなど、使用環境にまだ問題もあるものの、今後、一家に一台のパソコンが当たり前となる時代も近いのではないだろうか。

これに伴い、医薬品の流通を取り巻く環境も変革が予想される。

今回は、早くからホームページを立ち上げ、インターネット上で情報発信を実現させている組合員3社の社長にお集まりいただき、インターネット時代の現状とこれからの展望についてお話を伺った。



■インターネットに期待するのは、メーカー・消費者・小売店が有機的に結びつく情報

伊沢 こちらにいらっしゃる皆様の会社は、それぞれにホームページを持っていらっしゃいますが、そもそも開設したいきさつは?

大泉 開設して足かけ4年くらいになります。最初はあまり実体がわからないレベルでしたが、興味はあったので、とりあえず勉強してみようというところからはじめました。

当社が販売するクマ笹の薬は、全国1,400ないし1,500の店と直取引を行っており、今後、市場の活性化をどうするかについては常に大きなテーマです。購買のきっかけについて調べたところによると、現在、店頭での推奨によるものが8割と主流ながら、残り2割は口コミということがわかったんです。

会社と消費者と店が有機的に結びつくような情報を発信・交換する場を築くために、口コミ的な機能を果たすものとしてインターネットがいいのではないかと考えました。



大泉高明氏
(株)大和生物研究所

藤井 コンピュータシステムの整備に関しては、社長に就任した5年前から、ホームページによる消費者への情報発信はもちろんのこ

藤井隆太氏
(株)龍角散



と、社内情報を社員へ確実に伝達するためにも必要ではないかと思っていました。ただし、社員のパソコンへの適応性を考えると一気に導入することは難しいので、まずハードを整えて、パソコンに慣れ親しんでもらうところから出発し、社内での有用性が認められてくるまでじっくりと待つことにしました。

結局、3年ほどその期間を要したので、実際にホームページを開設してからは、まだ2ヵ月ほどです。

秋山 私自身が大学院生のときからパソコン



秋山泰伸氏
(株)秋山錠剤

に興味を持っていたことが、そもそものきっかけです。研究室で教えてもらいながら覚えました。

パソコンの利用者が爆発的に増えた平成6年に、「いまのうちにドメイン名をとると、いい名前でとれる」と聞いて即取得しました。「akiyama.co.jp」で取得できたのはラッキーでしたね。

社内にホームページに詳しいスタッフがいたこともあって、外注はせずに内部のスタッフだけで作成しました。これからもシステムは徐々に整えていきたいです。

伊沢 各社に共通しているのは、まず社員それぞれがパソコンを触って覚えるという、社内インフラの整備から入られたところですね。

■ホームページには、あらゆる一般消費者の目に留まる可能性がある

伊沢 それでは、現在はどのようなページを開設されていらっしゃいますか？

大泉 現在は、製品説明についてはもちろんですが、「パンブーフォーラム」というタイトルで、クマ笹の一般情報について盛り込んだページも作成しています。

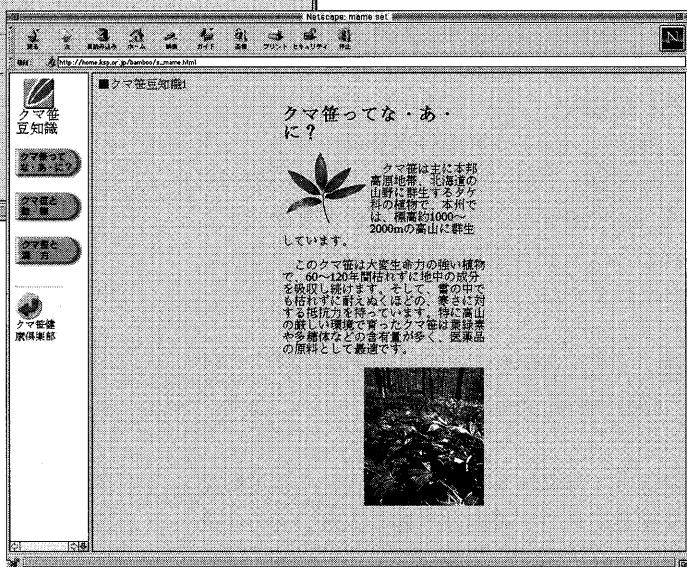
また、日本語版のほかに、それを翻訳した英語版のページも開設しています。

藤井 今のところ、会社概要や商品・新製品の説明といった、会社案内のパンフレットとほぼ同様の内容ですね。ホームページならではの情報はまだまだこれから、といったところ



株式会社大和生物研究所
ホームページアドレス
<http://home.ksp.or.jp/daiwa/>

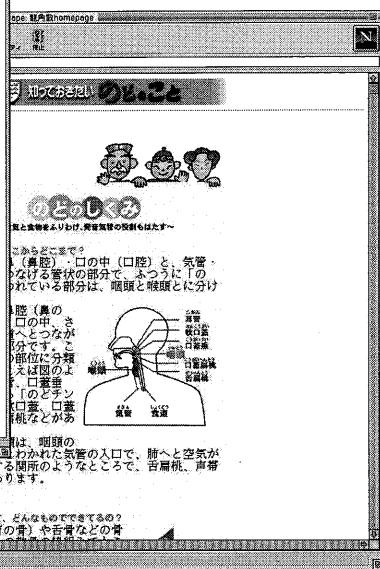
「パンブーフォーラム」では、クマ笹や竹についての一般知識も掲載。▼





株式会社龍角散
ホームページアドレス
<http://www.ryukakusan.co.jp/>

話題に上った「のどのおはなし」も、
現在ではアップされている。▼



ろです。

現在は引き続きリニューアルを進行中で、まだサンプル段階ではありますが、のどについての一般知識なども盛り込み、消費者が取得しにくい情報も発信していきます。

秋山 現在のものはリニューアル版です。当社の場合、受託製造が9割を占め、もともとメーカー向けの商品が多いこともあり、主にそれを意識したページ作りをしてきました。

検索エンジンへの登録はまだですが、インターネット上にあるということは、一般消費者の目に触れることが多いですから、これからは一般向け商品の紹介も充実させていきたいですね。

■ごく近い将来、インターネットがビジネスの必須ツールに

伊沢 インターネットの情報が、今後の商業や流通に果たす役割はやはり大きいものがある、と。

大泉 どの会社にも当たり前のようにある電話も、振り返ってみれば、ほんの50年前までは一般的なツールではなかったんですよね。今や、まず電話1本引いてからでないと商売を始められない状況になっている。インターネットも近い将来にはそうなるかもしれません。

先日、70歳の方から「飲んでよかった」というEメールをいただきましたが、その年代の方からメールが届くのはまだ稀なケースですね。今後はもっと普及して、稀なケースではなくなるでしょうけれど。

ただ、パソコンがあるだけではダメで、利用の仕方次第だと思いますね。インターネットはあくまでもメディアのひとつですから。

今まで、モノが流れるのにはマスコミの力を必要としていました。マスコミの情報はどちらかというと画一的で統制されていることがほとんどですね。

これからは口コミ的な情報が主体になってくると思っています。口コミということは、

マスコミに対し非統制的で、ある意味で専門家の必要性が薄れ、素人の登場する余地がある。インターネットはその代表格でしょう。

さらに、インターネットには地域の縛りがなく、双方向にコミュニケーションできるのも大きな魅力です。物流にとって、情報はなくてはならないものですから、これからのビジネスにおけるインターネットの有用性は否めないでしょうね。

藤井 社外への情報発信については大泉さんに同感ですね。発信する情報やインターネットの利用法については、内外の環境に応じて常に変えていくべきだと思います。

現段階では、まず自分たちのホームページを見てもらうことが大事です。そのための仕掛けも考えなければなりません。実際、東家

協のホームページには組合員各社の情報が掲載され、それぞれ単独のページへもリンクされていますが、こうすることで一般消費者の目に留まる機会が増えるんですね。

それから、インターネット利用が成熟してくると、今度はどういう情報を消費者に発信するか、ということに神経質にならざるを得ません。当社の場合だと、龍角散というすべての商品に生薬が入っているかのようなイメージで見られがちなので、成分がはっきりわかるようなつくりのページにして、どういう症状のときにどの商品を使えばいいか明確にする必要があるなと感じています。

伊沢 店頭レベルではとかく販売に走りがちで、細かな情報提供がされているとはい難いですからね。

主に各メーカーに向けて、業務内容を伝える営業案内のページ。▼

秋山錠剤株式会社
ホームページアドレス
<http://www.akiyama.co.jp/>

混合機	打錠機	厚さ選別機
糖衣機	糖衣機	錠剤計数充填機
攪拌溶解乾燥機	自動糖衣機	カプセル充填機
粉碎機	フィルムコーティング機	PTP 包装機
顆粒機	脱出しパン	シーリングパッカー
壓縮機	錠剤切削機	スティック包装機
乾燥機	錠剤ビデオ検査装置	外観検査機
流動層造粒乾燥機	錠剤金属探知機	

区分許可

1997年10月付で新規、新設、混合、混合・充填工程、打錠、コーティング、カプセル充填、充填、製栓、表示の12工程にわたり許可を取得しています。

back

右下のバナーをクリックすると、各部位(症状)に対応する医薬品を製造している会社のページにアクセスできる。▼

東京都家庭薬工業協同組合
ホームページアドレス
<http://www.tokakyo.or.jp/>

東京都家庭薬工業協同組合
東京都中央区銀座8丁目18番16号
Phone03-3543-1786
E-mail tokakyo@blu.ocn.ne.jp

藤井 やはり、私たちの仕事はダイレクトに生命にかかわる責任の重いものですから、事故がないようにしなければなりません。そのためにも、提供する情報の中身には神経質になるべきですね。

秋山 当社は、一般ユーザーが少ないとはいっても、業者中心にばかり偏らない情報を心がけたいですね。

ホームページは文字と写真などのビジュアルで、よりトータルに情報を提供できますし、見たいときにいつでも見られるという効率性がありますから、有効活用していきたいです。

■ネット上のきめ細やかな商品説明は、隠れた販促活動になる

伊沢 今後は、情報発信という側面以外に、すでに米国では盛んになっている電子商取引、いわゆるEC(Electronic Commerce)の側面が大きくなってくると予想されています。インターネットを通じてのマーケットが大きくなるということは、流通そのものに大きな改革をもたらす可能性があるわけですが、皆様は今後どのような対応をされていくご予定ですか？

大泉 通信販売はまだしていません。情報を発信したり、受け取ったりする段階にとどまっています。

薬局で、ホームページを開設して店レベルでの通販を始めたところはいくつか出てきています。薬局にとってみれば、地域の枠を超えた商圈を獲得することになり、販売ルートに広がりをみせています。

顧客に対しては、Eメールでの情報提供も隨時行えるようなしきみを整えたいですが、まずはDMやFAX等と併用して、定期的に情報発信したり意見を返してもらえるような形が構築できればいいのではと思います。

伊沢 DMは郵送料をはじめとしてかなりのコストがかかりますね。それに、かなり意識的に掘り起こしていくないと、なかなかリピーターが増やせないですね。それをEメールに切り替えれば、コストも抑えられるし、消費者からの声も届きやすいですね。

大泉 先日、当社製品を8回連続でご購入いただいた方を対象に調査したところ、年間でそのうち2割が連続購入をやめていることがわかりました。なんとなく飽きてきた、マンネリ化したこと。効果がなかったというわけではないので、そういう理由で購入をやめてしまう方々へ、継続服用してもらうために何らかのアクションが起こせるのではないかと考えています。

インターネットの普及により、イメージ先行型のマスコミ情報が幅を利かせている現状も少しずつ変わって、製品サイクルの短い、流行に左右される短命商品の時代は幕を下ろすかもしれません。

藤井 薬事法との絡みもありますし、現段階でECを取り入れるのは効率もよくないので、当面は必要ないと思っています。ただし将来的には、商品によってはあり得るかもしれません。

伊沢 対面販売が原則の医薬品では、ECへの移行は現実的ではないですね。

藤井 ええ。ただ、直接的なECとは異なりますが、店頭向ではない医療用医薬品や、ユーザー層が限られるために店頭で目にするこの少ない商品については、どんなものを扱っているか伝える義務がありますね。紹介したもののが、必要とする人の目に留まれば、それが隠れた販促活動になるんです。

■21世紀の鍵は、インターネットというツールをいかに使いこなすか

伊沢 最後に、2000年を迎えるにあたって、インターネットへの抱負を一言ずつお願ひ致します。

藤井 情報の流れは止めようがないわけで、結局は各人の情報処理能力、自己責任にかかっているわけです。

商品の情報を発信するとき、その情報が受け手にとって解りにくいものであれば意味がない。曲解されたりして、正しく伝わらない場合の責任は重いですからね。

大泉 情報を伝えるためには、まず自社製品のコンセプトをしっかりと持つことですね。そして、当社なりの独自性や顧客満足を発生させていくけるような工夫や心遣いを欠かさず、エンドユーザーといかにコミュニケーションできるかということに尽きます。

秋山 一般的な傾向として、まだ言葉に踊らされているように感じます。インターネットはひとつの手段でありツールにすぎず、それを使って仕事をしている私たちが主体なんです。

ただ、それをわきまえた上で接すれば、会社としての考え方、理念を整理する機会として有用ですから、多くの人がうまく使いこなしていければいいなと思います。

伊沢 本日は貴重なお話、どうもありがとうございました。

これからの 100年を見据えて

晴れて2000年を迎えた今年。

これまでに培った伝統と実績を礎に、家庭薬も新時代を迎えます。

長い歴史を誇る東家協組合員各社の要職に就く方々から、ますますの繁栄をもたらすための「キーワード」をうかがいました。

そこから、家庭薬の明日が見えてくれれば…。

(社名は五十音順です)

世界の流れに後れをとらぬこと

株式会社 浅田飴 代表取締役社長
堀内 恵美子

薬業界もグローバル化の時代に入り、知力、情報収集力を高め、昨年より今年、今年より来年と常に前進することへの努力が、百年後も会社が健全であることの条件だと思います。

中西医結合

イスクラ産業株式会社 代表取締役社長
小松 朝彦

21世紀は西洋医学と中国医学とがドッキングする時代。両方の長所を活かし皆様の健康を守ることに貢献できれば、結果として私どもも繁栄すると確信しています。

躍進

大木製薬株式会社 常務取締役
村上 勇二

21世紀を迎える古来より受け継いだ伝統を大切に、健康を維持する優良な製品作りと、お客様に信頼される製薬メーカーとして飛躍のスタートにしたい。

環境保善の上に立つ繁栄を

株式会社 太田胃散 代表取締役社長
太田 昭

21世紀における企業の存続滅亡は、自然の摂理と環境保善に対しいかに意を尽くすかによって決まるであろう。21世紀の生産および流通において、環境破壊に対するチェックは大きな問題となるであろう。

寛容、忍耐、誠実

株式会社 キタニ 代表取締役社長
喜谷 喜夫

21世紀には世の中がますます複雑化し忍耐を要する事も増そう。内には寛容と忍耐の心を持って、自らにはもちろん、対外的には常に誠実でありたいと念じている。



和

株式会社 君う代 代表取締役社長
山本 雄次郎

これからの100年、我々が第一に望むのは世界平和である。これなくして真の繁栄はありえない。国内においても、いかなる社会・組織・家庭も仲良く調和のとれたものであってこそ、これからの変化の激しい時代に対応し発展できるものと思う。

キュアからケアへ

救心製薬株式会社 代表取締役社長
堀 正巳

家庭薬はキュア(治療)も大切だが、やさしさに代表されるケア(介護・世話)も重要だ。このやさしさをいかに製品に活かすことができるかが、2000年を迎えるにあたってのポイントだと考える。

いつの世も“誠実”たれ

株式会社 金冠堂 代表取締役社長
山崎 寅

四書『中庸』に「至誠ハ息ムコト無シ」とあるが、いまの当社があるのは常に「誠実」であり続けてきたからだと思う。今後も「誠実をつくす」ことが当社の使命だと考えている。

自然と調和

三宝製薬株式会社 代表取締役社長
渡邊 吉康

地球上には土、水、空気、そして太陽がある。森羅万象は生物には欠かせないものであり、我々の生命と健康をより自然環境に調和できるよう努力することが製薬企業の一使命と考える。

健康への道

株式会社 霜鳥研究所 取締役事業本部長
栗原 康雄

21世紀においても当社では、更なる個々のお客様方への健康に対する道程を探求し、一歩ずつお客様とともに歩んでいきたいと思います。

目標の共有

大幸薬品株式会社 代表取締役社長
柴田 仁

企業の明確な目標を設定し、全社員が共有することが重要です。目標達成のための具体的な行動計画を立てて、全員がベクトルの方向を合わせて進んでいくことが必要です。

エビデンス

大東製薬工業株式会社 代表取締役社長
福井 靖彦

元気でいたい。個人も企業も国も願っている。生命エネルギーの自然治癒力向上が課題だ。無数にある方法のどれを選ぶかはコストと品質次第。結局決め手はエビデンスの説得力だ。

コンセプト&コミュニケーション

株式会社 大和生物研究所 代表取締役社長
大泉 高明

小さな会社が21世紀を生き残るには、明確なコンセプトを経営に反映し、お客様とのコミュニケーションを通して小さくとも確実な市場を開拓することが重要であると考える。

自然に逆らわず

株式会社 建林松鶴堂 代表取締役社長
建林 邦信

新世紀は「自然回帰の時代」といわれる。伝統ある東洋医学・漢方はまさに自然に逆らわない生薬。当社は漢方の自然治癒力を広く消費者にアピールし、信頼獲得に努めたい。

消費者のニーズを求め、真剣に対応

玉川衛材株式会社 代表取締役社長
玉川 博之

デジタル、グローバルの情報開示社会の中で、遺伝子による個々の体質が今明らかにされようとしています。一人ひとりの消費者のためによりよい物をモットーに研究をしてまいります。

顧客満足

丹平製薬株式会社 代表取締役社長
森 輝彦

「お客様へのお役立ち——それがわたくし達の使命です。」

生活者をはじめとするあらゆるお客様のニーズに貢献できる企業をめざします。

青春の心で世界に翔く

株式会社 ツムラ 代表取締役社長
風間 八左衛門

これからの時代、大切にしたいことは常に新しい目標を掲げ、前向きに挑戦し続ける青春の心を持つことです。青春の心で当たれば、世界へ翔く道も開けて来ることでしょう。

健康

株式会社 トクホン 代表取締役社長
鈴木 國之

トクホンの社章は人間の健康な体、健康な心、健康な社会生活を表しており、創業以来一貫したテーマです。100年後もこの気持ちで社業を続けてもらいたい。

観察・分析・客観性

双葉製薬工業株式会社 代表取締役社長
五味 尚志

需要基盤の変化が激しく、家庭薬が過去100年と同じ形で存続することは考えにくい。消費者のライフスタイルを客観的に観察し、マルチチャンネルでの分析と対応が必要である。

革新

ホーユー株式会社 代表取締役社長
水野 新平

21世紀の繁栄を支えるための新たな技術力は、従来の技術の革新とともに、社会環境や経済システムの革新から生み出されるものと考える。

慮(おもんぱかる)

養命酒製造株式会社 代表取締役社長
塩澤 譲

予想もできない程に激しく荒々しく動く100年だと思います。自分自身を見失いがちになる時代。大切なのは、事象をよく考える思慮、熟慮、更に考える深慮。他への心を忘れない配慮、時には遠慮も必要です。流されないように、歩みを進めて行きたいものです。

アンサンブル

株式会社 龍角散 代表取締役社長
藤井 隆太

家庭薬の存続には、業界も国境も飛び越えた幅広いネットワーク構築が最も望まれるのではないだろうか。仏語で「一緒に」の言葉を将来の発展と繁栄を祈念して掲げたい。

志(こころざし)

ロート製薬株式会社 代表取締役社長
山田 邦雄

今の日本の社会は、あまりに志の低い人間、志の低い組織が多くすぎる。
我々に最も欠けているものだから。

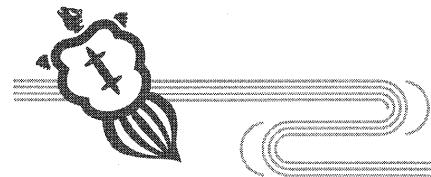
自然

株式会社 和漢薬研究所 代表取締役社長
横手 久典

ヒトも自然の一員であるという認識が薄れているところに様々な問題が発生します。自然の中に答えを求めることが、健康で明るい生活に貢献する当社の基本姿勢です。

*ご協力をいただき、誠にありがとうございました。





トクホン

株式会社 トクホン

●鈴木日本堂の創立



▲鈴木日本堂初代社長
故鈴木由太郎

由太郎の父小出羽守は、明治になり、彰義隊の一人であったことが露見することを恐れ、鈴木栄三郎として木綿問屋を経営して大いに成功を得ている。明治11年に栄三郎の嫡子として生まれた由太郎は、明治24年、13歳の時に浅草諏訪町にある家庭薬製造業西川合名会社に奉公に出され、その後、よく勤めた甲斐あって明治33年に独立を決意し、翌明治34年に本所横山町に鈴木日本堂を創立するに至った。

独立後の由太郎は①消耗するもの、②大量に生産できるもの、③保存できるもの、④手軽に持ち運べるものという条件を満たす製品を作れば必ず会社は成功するという信念を持ち、努力を重ね、大正9年には年商約5万円の売上を示すほどに成長したのである。

●非常時宣言

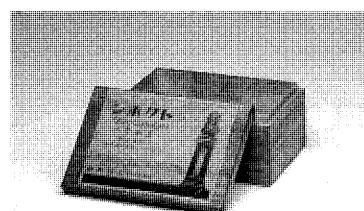
順調にいっていた鈴木日本堂だったが、大正12年には関東大震災に遭い大きな被害を受けてしまう。この苦境は人から教わったアカ

ギレ膏の発売でなんとか乗り切ることができたがその傷は深く、昭和6年に店を日本橋馬喰町に移転した時には震災からの借金がかさみ、5万円の負債を抱えることになってしまっていた。由太郎はこの打開策を考え、打ち出したのは「非常時三年計画」と「五カ年計画」。「非常時三年計画」とは三年間で借金を返済するため、従業員の諸経費を切り詰め、給料を10%減給することであり、「五カ年計画」とは昭和3年に試作を完成していた貼薬『トクホン』を昭和8年から全国展開し、昭和13年の売上目標を160万円にすることであった。この計画は順調に進み、三年後には借金を返済、五年後には新聞広告をするなどの努力が実って売上目標額の160万円を突破することができたのである。

●貼薬『トクホン』の誕生

鈴木日本堂創業当時の製品は頭痛膏「乙女桜」、かぜ薬「オビトリリン」、貼薬「シカマン」などであった。この中で「シカマン」は今でも「キクマン」と名前を変え、株式会社トクホンの製品として発売され、大変なロングセラー商品として残っている。

由太郎がこの「シカマン」と頭痛膏を併せて何かよい製品ができるかと考えていたとき、当時、番頭で後に専務となつた中尾義隆



▲トクホン最初のパッケージ

が静岡にいった際、偶然に『天来』^{てんらい}という膏薬を見つけてきた。この天来はシカマンに似ているが、シール状ですぐ貼れ、また、シカマンのような油臭いにおいもなくハッカのさわやかなにおいもした。これを見た由太郎は1,500回以上の試作を繰り返した後、遂に昭和3年にトクホンを完成したのであった。

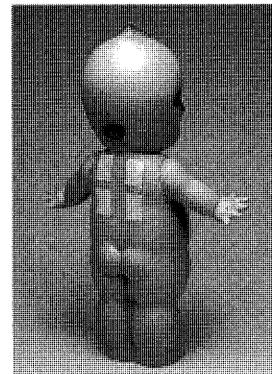
ここで作られた『トクホン』の名前は、由太郎がある大衆雑誌に載っていた甲斐の医聖といわれた永田徳本の事跡に感動したこと、また、弾むような語感に加え、“徳”という字が人々に恩恵を与える“徳”に通じ、「痛みを解く」の“解く”にも結び付くと考え、すぐに商標登録を行ったものである。また、この際に考案された絆創膏タイプの膏薬は、従来のラスターイプに変わり、以降膏薬の主流となっている。

●CIの導入

新聞による広告活動で五ヵ年計画を成功させ、肩こり・腰痛などの鎮痛貼布剤の代名詞のようにいわれるようになったトクホンであるが、さらなる発展にはマスコミによるコマーシャルが大きな力を發揮した。新聞・雑誌の記事広告はもとより、ラジオで民間放送が開始されると同時に30分の民謡番組、また、昭和30年にテレビ放送が開始されると同時に「貴方のお名前なんてえの」という流行語まで作った歌謡番組のスポンサーになり、広告活

動に力を入れてきた。また、この番組では番組の間にキューピー人形を使いトクホンの貼り方を説明するなど日本で初めての生コマーシャルも放映している。

明治34年に始められた鈴木日本堂は関東大震災、第二次大戦などの幾多の試練を乗り越え、昭和23年には由太郎が長男、鈴木宗一郎に会社を任せ、本社を神田旅籠町に移転した。その後、昭和28年には現在の日本橋本町に移転したが、平成の時代になり、CIの導入により株式会社トクホンに社名を変更した。この時に考案された社章は一つの円と二つのエレメントからなっており、一つの円は健康な身体を表し、二つのエレメントはそれぞれ健康な心と健康な社会生活を表している。「皆の健康を考える」これは当社の創始者、鈴木由太郎以来、連綿と受け継がれている精神であり、貼薬トクホンとともに当社の大きな財産となっている。



▲生コマーシャルに使われたキューピー人形



▲新しく考案された社章

トクホン-A



効能・効果

肩こり、腰痛、筋肉痛、筋肉疲労、関節痛、打撲、捻挫、骨折痛、しもやけ

成分・分量(1m²中)

サリチル酸メチル 11.2g、サリチル酸グリコール 3.0g、酢酸トコフェロール(ビタミンE)2.5g、l-メントール 10.5g、dl-カンフル 1.8g

用法・用量

薬剤面をおおった離型紙をはがし、1日数回患部に貼る。

価格

40枚 500円、80枚 900円、120枚 1,250円

山之内製薬株式会社焼津工場見学記

救心製薬株式会社 第一生産部 品質管理課課長 貞升 敏明

前日の大雨から一転、秋晴れとなった10月28日、第10回GMP研修見学会が開催されました。

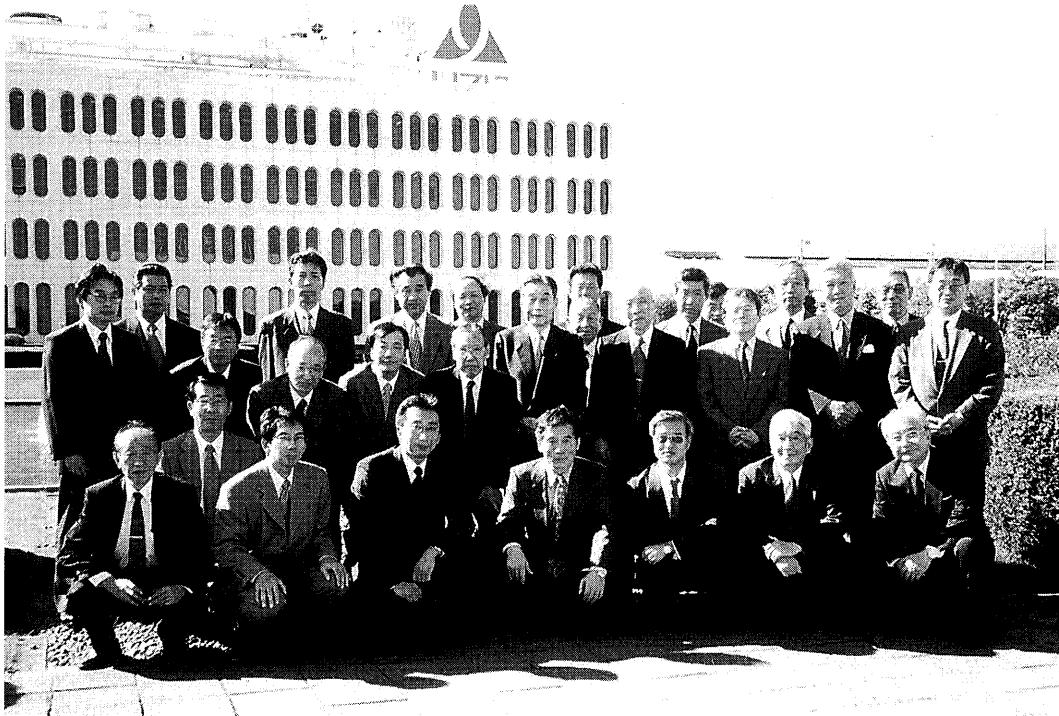
参加者は28名、静岡県焼津駅に集合し、バスで出発、山之内製薬焼津工場までは約15分の道のりでした。

まず正門から敷地内に入ると、広大な敷地と白い大きな建物、規模の違いを改めて感じた一瞬でした。到着後、焼津工場のシンボルともいるべき噴水の前で記念撮影を行い、会議室へと案内されました。

山之内製薬焼津工場の概要については、ビデオ映写により説明を受けました。焼津工場

は山之内製薬の国内外の主力工場で、国内製剤量の約6割を生産し、錠剤とカプセル剤を合わせての生産量は年間約20億錠にもなるとのことでした。

概要説明の後はいよいよ工場内の見学。2班に分かれて生産棟へ向かいました。生産棟への進入経路は一本の地下通路だけになっており、これは工場内の清浄度管理の象徴のようでした。1号棟では錠剤の製造からPTP充填まで、4号棟では注射剤の液充填から凍結乾燥、包装工程までを見学することができました。



▲焼津工場前庭で記念撮影



▲ビデオ等を使っての概要説明

見学時には清浄度区分の明確化や効率的な夜間作動、さらには自社で種々の自動化生産システムの開発を行っている点などの説明を受けました。さらに、現在3号棟を建設中で数年後にはバリデーションも終了し、最新設備の注射剤製造棟が完成するというスケールの大きな話もうかがうことができました。

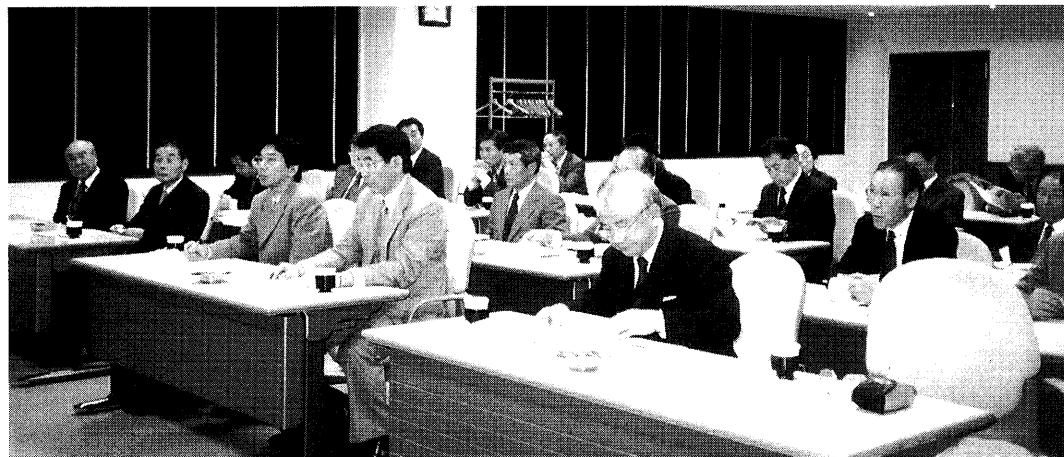
見学終了後、焼津工場がISO9002を取得するまでの経緯ならびに焼津工場の品質保証体制についての説明がありました。国際化に対応するため、GMPに規定された医薬品製造の品質保証システムから一步踏み出し、品質ポリシーの確立とその徹底。さらには、技術継承を考えた保証体制など、企業全体の品質保証システムの構築を行ってきたという内容

で、焼津工場のレベルの高さに感心するとともに私自身大きな刺激を受けました。

説明後の質疑応答では多くの質問が出され、品質保証体制、特にISO9002に対する参加者の関心の高さがうかがえました。質疑応答後、焼津工場を後にし、ホテルへの帰路につきました。

夜の懇親会においては自己紹介の後、活発な意見交換が行われ、特に今回の研修見学会は刺激を受けたという意見や有意義な一日を過ごせたという声が多く聞かれました。

最後に今回の工場見学におきましては、能浦工場長をはじめ焼津工場の皆様方には貴重な時間を割いていただき、かつ懇切丁寧な説明をいただき心から感謝いたします。



▲概要説明を熱心に聞く組合員

委員会だより

◆薬事委員会

委員長 佐々木 康彦

薬事に関する最近の主な動向を以下のとおり報告いたします。

1. 規制緩和について

「平成12年度の規制緩和に関する要望」について、厚生省（審査管理課、企画課、監視指導課の7名）と当該件の要望の内容および背景の説明を行い、一層の規制緩和の実現を要望した。

2. 外皮用薬の承認基準について

外皮消炎鎮痛薬の製造（輸入）承認基準の進捗状況は、「調査結果」に関する資料を平成10年10月に提出以来動きはみられなかったが、昨年の8月と10月に審査管理課より質問が寄せられ、少し動き出しそうな気配を感じられます。

3. 薬事制度の検討について

薬事制度検討委員会の中間検討状況が昨年11月17日付で報告された。検討中のテーマは以下のとおりである。

- (1) 開発から市販後までの規制の一貫性について
- (2) 承認事項の見直しを含む承認・許可のあり方およびその更新制度について
- (3) 医薬品区分ごとの薬事制度のあり方について
- (4) DMF（ドラッグマスターファイル）制度の導入について
- (5) 製造・輸入販売業許可および品目の許可のあり方について
- (6) 販売承認制度の導入について
- (7) 表示・広告・情報提供のあり方について
- (8) 毒薬・劇薬指定の必要性について
- (9) 日本薬局方のあり方について

薬事制度の一般薬検討部会は、販売承認制度の一般用医薬品への適応は現在の承認制度と比較し、規制強化が考えられるので当該制度の導入は時期尚早との結論に異論はなかった。

医薬品区分とその薬事制度のあり方については現在検討中である。

今後、他の検討テーマに着手し、平成12年3月を最終報告書作成の目処とし、少なくとも上記テーマ(2)、(3)、(5)の裏付けの資料作成を終了させる。

その他の検討テーマは、それ以後の作業とする。

4. 薬事講習会の開催

組合の薬事講習会が都衛生局薬務部担当者により以下のテーマで昨年12月13日に開催され、約60名の参加者があった。

- (1) 最近の薬事行政について
- (2) 一般用医薬品の承認ならびに許可申請上の留意点について
- (3) 東京都におけるGMPの指導状況について
(株式会社トクホン 取締役研究開発部長)

◆GMP委員会

委員長 池上 進

GMP研修見学会を去る10月28日に行いました。工場見学では、山之内製薬焼津工場の清潔度の高い機能的なハード面の見学およびISO9002取得の考え方等の説明を聞くことができ、大変有意義な研修会でした。また、夜の懇親会でも皆様から大変良かったとの講評が聞かれました。

最近の動向として、日薬連の情報を簡単にお知らせします。

1. 医薬品GMP解説および事例集について

12月までにご提出いただいた「地方庁による査察時の不適切と感じた指摘事例について」などのアンケートをまとめ当委員会としての意見を日薬連へ反映させていきたいと思います。

2. バリデーションに関する追加Q&A

既存製品のバリデーションおよび洗浄バリデーションに限定して検討の上、11月後半に厚生省へ案を提出いたしました。

3. 規制緩和について

試験検査機関の利用拡大については進展ていません。

医療用の一部変更承認申請の簡素化について、「承認事項の記載内容を簡略化する」案を検討し、厚生省に提出いたしました。医薬品機構および審査センターで検討し回答がなされる予定です。一般用医薬品についても同様に承認事項の検討を行っています。

4. 医薬品・医療用具等の回収について

研究班で回収の定義とクラス分類の定義などを検討中です。情報伝達の手段としてインターネット上で公表することも検討されています。

(救心製薬株式会社 生産部門長補佐)

◆流通委員会

委員長 鈴木 國之

平成11年度の7～9月期の国内総生産(GDP)は、個人消費、設備投資、住宅投資の民間需要と、公共事業などの公的需要が総じて不振だったため、三期ぶりのマイナス成長に転じました。

しかし、10月の景気動向指数は景気拡大局面を示したほか、企業の生産活動の拡大や雇用情勢などGDPに現れない明るい兆しもあり、これらの動きを政策的に後押しできれば回復基調が更に強まるものと思われます。

我々の薬業界に目を移せば医療用医薬品市場は平成11年度上期においては前年同期比3%強増えております。これは昨年秋からの新薬効果や7月の老人の薬剤一部負担の免除の効果が出たものとみられております。

しかし、年度末には薬価改定前の買い控えという要素もあり、前年比2%前後の伸長になるものと思われます。

これに対し、我々の一般用医薬品市場は景気低迷により個人消費が伸びず、大変苦戦をしており前年同期比で1%強の減少となっております。

このような厳しい状況に対応するため、45回にわたり開催されてきた家庭薬流通懇談会は発展的に解消し、新しく全家協の流通委員会に新規会員を募り、流通委員会を発足することになりました。その第1回流通委員会が平成11年10月21日、青山ダイヤモンドホールにて開催されました。主な議題は下記の通りです。

1. 日薬連薬制委員会の下部組織として設置されている「薬事制度検討委員会」では、医薬品の承認に関する件（承認事項など承認のあり方について及び承認の更新制について）や、一般用医薬品の新しい区分のあり方と薬事制度について検討。一般用医薬品の新しい区分のあり方は、消費者にとってわかりやすいこととする、新法における取り扱いなどを明確にするなどの意見を参考とした対策をまとめている過程などにつき、その進捗状況の説明。

2. 医薬品の規制緩和問題について、今後の情勢は決して楽観は許されないので十分な対策をしておくこと。

3. 食薬区分について、また、健康食品と栄養補助食品に関する検討。

4. 医薬品近畿流懇会議の報告、また、胃腸薬ドリンク剤の医薬部外品の対応につき報告。

5. 全商連理事会でのPB商品の取り扱いについて。

6. 新高橋盛大堂の内整理の完了などにつき報告。

以上の議題で第1回全家協流通委員会の会議が行われましたが、今後とも一般消費の上昇は望めない状況におかれていますので、いかに各社の業績を伸ばすか全委員が横の連絡を密にして頑張っていきたいと念願致しておりますので、会員各位の一層のご指導をお願い申し上げます。

(株式会社トクホン 社長)

◆広告委員会

委員長 山崎 寅

平成11年の我が大衆薬市場における最大の話題といえば、何といっても「新医薬部外品」の登場でしょう。まず第一弾としていわゆる「栄養ドリンク」の一部が医薬品そのままの成分用量で新医薬部外品に移行しました。その大部分が「売れ筋商品」であったため影響が大きいものと予想されました。

さて、この「新医薬部外品」の広告についてですが、医薬品と比較しますとだいぶ緩和されました。例えば服用シーンです。今まで内服剤の場合、チュアブル剤など新しい剤

形の場合のみ服用指導ということで服用シーンが認められていました。もともと服用シーンが医薬品では広告してはいけないということになっていた理由は、「乱用助長を促す」ということからでした。

ところが、「新医薬部外品」では服用シーンを全面的に認めることになりました。しかしその場合は条件として、服用シーンの同一画面において「一日一回一本」というような用法を出さなければなりません。これなども「乱用助長」に歯止めをかけているという例です。

また、医薬品の栄養ドリンクと新医薬部外品の栄養ドリンクの広告を同時に実行する場合は、商品カットのそばに『医薬品』『医薬部外品』の文字を入れることになっています。その上、医薬品と新医薬部外品を同時に広告する場合はあくまでも「医薬品」の基準に合わせるということになっています。

新医薬部外品の栄養ドリンク剤に統いて、「健胃清涼剤」などの新医薬部外品が登場しますが、これらの広告基準はその都度作っていくことになります。

どうか、組合員各位の広告宣伝担当者の方におかれましても、今後「新医薬部外品」を発売し、広告宣伝を行う場合は十分に注意していただきたいと思います。

(株式会社金冠堂 社長)

◆労務委員会

委員長 荒井 聰

当委員会は、秋山錠剤、河合製薬、浅田飴、わかもと製薬、イチジク製薬、救心製薬、養命酒製造、太田胃散、トクホン、龍角散、東京甲子社、金冠堂、ツムラの13社が年4回定例会を開催し、労務管理に関するタイムリーな課題を取り上げ、法改正などの内容確認や各社の対応方法等についての情報交換・検討を行っています。

例年9月の委員会は合宿形式で開催しております。今年度も9月16日から17日にかけて軽井沢にあるツムラの保養所を借り切って開催いたしました。

今回は9社11名の方にご参加いただき、各

社の現状報告、質疑応答等の情報交換と「国内出張旅費・海外出張旅費について」「定年退職者の継続雇用と待遇について」「東京都家庭薬工業協同組合の就業規則改正案の作成について」という3つのテーマに関して話し合いを行いました。

「国内出張旅費・海外出張旅費について」は、各社の規則や取扱内容について情報交換を行いました。「定年退職者の継続雇用と待遇について」は、昨今、厚生年金の受給年齢の引き上げや定年延長が話題になっており、今後各企業が直面するであろうテーマでもあるため、各社の運用や今後の対応について活発な議論がされました。また、現在各企業の懸案事項でもある企業年金のあり方にまで議論がおよびました。「東京都家庭薬工業協同組合の就業規則改正案の作成について」は、労働基準法等の法改正に伴う就業規則の改正点について検討し、労務委員会としての改正案を作成いたしました。

そうした中で、年に一度の宿泊しての委員会でもあり、夕食の後も活発に情報交換をされていた委員もいらっしゃいました。

また、12月の定例会議では「賞与交渉の経過」について話し合いました。

最後になりましたが、毎年のように行われる法改正や行政指導により、労務関係の新しい課題が発生してきています。その中には、企業年金の問題やセクハラおよび過労死の企業責任等、対応を間違えると企業に大きなダメージを与えることもあります。労務担当者としては、アンテナを高く張り巡らせて幅広い情報をキャッチし、自社に必要な情報を選別、具現化していくことが一層重要になってきています。今後も、当委員会を重要な情報収集の場として活用していただき、各社の労働条件の向上が図れるよう積極的に運営していきたいと考えております。

(株式会社ツムラ 人事部長)

◆厚生委員会

委員長 石原 道郎

10月28、29日にわたって、GMP委員会と共同で第10回GMP研修見学会が行われました。

今回は静岡県焼津市にある山之内製薬株式会社の焼津工場を見学し、大変有意義な研修見学会でした。詳細は別掲の見学記をご覧下さい。

10月31日から行われました第57回家庭薬軟式野球大会は、当委員会に別途設けられている野球委員会の皆様のご協力を得て、11月28日に無事終了しました。明治神宮外苑への球場借用申込の関係上、3月に例年ご参加いただいている組合関係の方には参加申込案内を送付する予定でいますが、新たに参加ご希望の方がおいでになりましたら、是非組合事務局までお申し出下さい。

なお、第57回の野球大会の内容は別掲のグラフティーをご覧下さい。

その他、TKGC(東京家庭薬組合ゴルフ会)も隔月に有名ゴルフ場で開催しており、多くの方のご入会をお待ちしております。

(石原薬品工業株式会社 社長)

◆消費者対応委員会 委員長 鯉沼 信二

消費者対応委員会はこの半年の間に7月と11月の2回の会議を開催し、その他にも9月17日には大阪家庭薬協会の消費者対応小委員会と合同の委員会を開き情報交換を行いました。

合同委員会では特別な講師を招かず、自分たちの経験した難クレームで事例研究を行い

ました。ご存じの方も多いと思いますが、最近、東家協組合員企業に難クレームが多いようです。このような場合には、慌てずに連絡を取り合ってクレームの解決に当たっていただけだと思います。昨年の研修会でネットワークを作ろうということで、多くの方と名刺交換をされたかと思います。これを利用して、いろいろな方と相談するのも一つの方法ではないでしょうか。

また、一昨年の研修会で PLセンターの石川事務局長のお話にありましたように、クレーム処理に当たり確認しなければならないことは「事実の確認」、「因果関係」です。もちろんお客様との話には「責任」や「補償」の問題も出てきますが、難クレームの場合は、最初から「責任」や「補償」の話が出てくることが多いと思います。そのため、難クレームの電話があると驚いてオロオロすることが多いのです。

しかし、このような時には落ち着いて「事実の確認」を行い、「責任」や「補償」の話は後程お答えすることにして、急いで結論を出さないことです。基本的にはクレームは時間をおかず解決することが良いと思いますが、ケースバイケースで難クレームの場合は解決を急がず、いろいろな人の話を聞いて最良の解決策を見つけてください。

消費者対応委員会の重要な仕事の一つに、

会員会社紹介



大東製薬工業株式会社

沿革

昭和24年(1949年)、梶原計国氏が創業。駆虫薬の製造販売を開始。26年、(株)学童衛生会を設立。37年、大東製薬工業(株)に改称。

理念

お客様に「生きる心と、生きるよろこび」を実感していただくこと。

東京都豊島区南長崎4-36-13



代表取締役社長
福井 靖彦
昭和9年生まれ
東京大学
農学部卒業

戦後の劣悪な衛生事情のなか、将来を担う学童の保健衛生の向上を願い、駆虫薬の製造販売を開始した。その後、昭和40年代より性に関する生活改善薬(トノス、ヒメロス等)の製造に注力し、現在は、ストレス社会や来る高齢化社会のなかで、性に関するQOL改善への貢献を目指している。

委員会だより

皆様への情報提供があります。しかし、委員会で得た情報を皆様にお知らせする機会が少なく、どのような方法が良いか検討中です。その一つとして研修会を毎年開催しています。今回も12月15日に研修会を行いました。中心テーマは難クレーム経験者によるパネルディスカッションでした。何らかのお役にたてたことだと思いますが、今後もこのような機会には是非ご出席をいただき、親交の輪を広げクレーム解決のためのネットワーク作りをしていただければと思います。

(株式会社トクホン 学術情報室長)

◆情報協業化委員会 委員長 藤井 隆太

当委員会は各委員のご協力を得て、引き続き月1回のペースで会議を開催しています。

次に最近の検討状況についてご報告します。

1. 販売協業化に関するアンケートについて

最近、量販店の台頭や大資本メーカーなどの参入によって流通における我々の立場はますます厳しいものになりつつあります。伝統ある家庭薬の販路拡大と品目充実のため、各社の専門性を結集した販売協力が今最も望まれているところで、この可能性を検討するための資料として去る11月にアンケートを実施しました。

その結果、送付数48社に対し、回答数は35社（回答率72.9%）で、そのうち興味ありとの回答は31社（88.6%）でした。現在、この運用について委員会において検討を行っています。

2. 組合ホームページについて

12月によろしく組合ホームページの独自のドメインが登録となり、今後の活性化が期待されます。現在、広報委員会のホームページ部会で追加掲載の内容が検討されていますが、当委員会としても特に組合員に対する情報提供の面から協力したいと考えています。

3. 医薬品の承継斡旋について

邑田資生堂の製造業廃止に伴う「むらた神薬」などの承継斡旋については、残念ながら種々の困難な事情により斡旋を中止しまし

た。そのほか最近、当組合員会より承継斡旋の申し出があり、現在その取り扱いについて検討を行っています。いずれ皆様にもお知らせしたいと考えていますが、その節はご支援、ご協力の程をお願いいたします。

4. 栄養補助食品の制度化の動向について

前号でご紹介しましたが、昨年末に厚生省の「いわゆる栄養補助食品の取り扱いに関する検討会」からこれまでの検討結果の中間報告が出されました。正式にこれに対する意見を広く求めて再検討を行い、3月には最終報告として発表される状況です。我々の業界にも影響が出るものと思われますので、当委員会でも引き続き強い関心をもって情報収集に努力しています。

(株式会社龍角散 社長)

◆広報委員会

委員長 伊沢 隆司

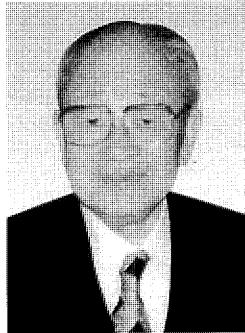
昨年末に当組合ホームページは、独自のドメイン名による情報発信が可能となりました。これにより、今後は更に「誰のために」「何を」が重要なテーマとなります。「誰の…」は、東家協メンバー、流通関係者、一般消費者などが想定されます。

広報委員会ホームページ部会では、当面、一般消費者向けに、当組合およびメンバー企業（製品）に対する理解を深めていただきたいとの情報を、奇をてらわず、提供してきたいと考えます。そして、中長期的ビジョンを持ちながら、情報ツールとして大きな可能性を秘めた、このホームページを最大限に有効活用する施策を講じていきたいと思います。

一方の広報誌部会においては、従前どおり「かていやく」の質の向上を図っていかなければなりません。また、今後は、ホームページにも流用して掲載可能な特集記事を企画して行く必要性も生じています。

皆様のご要望ご意見を十分に反映させながら、委員会の活動を進めていきたいと思います。

(養命酒製造株式会社 広報部副長)



追悼

宮川前総務委員長を偲んで

専務理事 唐崎 實

当組合の前総務委員会委員長、株式会社東京甲子社代表取締役会長の宮川修市さんは、昨年6月17日に83歳の生涯を閉じられました。

宮川さんは、昭和17年の企業整備令により家庭薬同業の4社が合併設立した株式会社東京甲子社に営業部長として入社以来、57年の長きにわたり会社発展のために尽くされた方でした。その間、戦中、戦後の物資不足の際には東奔西走して物資の確保に努めるとともに、昭和22年には専務取締役、昭和48年には代表取締役社長に就任し、昭和60年に山梨県に本格的な新工場を建設するなど、経営の近代化発展に貢献されました。

一方、当組合に対しては、昭和45年に理事に、昭和51年には総務委員長に就任され、平成8年に退任するまで組合所有の家庭薬ビルの維持を含む事業運営基盤の充実をはじめ、組合員各社の税制、事業資金、融資斡旋など経済活動全般に尽力されました。また、昭和55年には日本製薬団体連合会に中小企業対策を検討するための「中小企業対策懇談会」が設けられ、家庭薬業界の代表委員に、さらに同懇談会の副座長に選出され、退任するまでの15年余にわたり、薬業界における中小企業近

代化促進法の適用問題、金融、税制などの諸問題の処理解決に多大の功績を挙げられました。

このような数々の薬事功労により、昭和57年に厚生大臣表彰、昭和61年には勲五等瑞宝章を受けられ、さらにご逝去にあたり従六位に叙せられましたことは、生前残された偉業を国家が高く評価し、顕彰されたもので、喜ばしい限りです。

宮川さんとは戦後間もない頃に知り合い、その後組合の各種行事でたびたびご一緒させていただきましたが、いつも変わらず非常に温厚篤実な方でした。

平成2年9月にご子息の修作様に社長の座を譲られ、代表取締役会長として後進の指導育成に専念されましたが、現社長も立派な経営者に成長され、当組合においても若手理事のお一人としてご活躍いただいていることは、これも宮川さんのご薰陶の賜物であり、深く感謝している次第です。

ここに、永年にわたり我が家庭薬業界の進歩発展に尽くされたご功績に対し、敬意と感謝の念を捧げるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(東京都家庭薬工業協同組合 専務理事)

家庭薬グラフティー

■薬祖神祭

塩澤護理事長の玉串奉賛
(10月15日、東京薬事協会)



■第57回 家庭軟式野球大会

養命酒製造株式会社Bチーム、
優勝に輝く

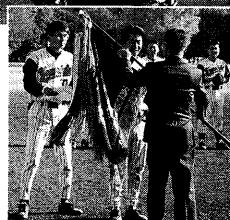
第57回家庭軟式野球大会は、天候に恵まれ10月31日の開会後、予定どおりの日程で進み11月28日明治神宮外苑軟式野球場にて決勝戦が行われました。

22チームの頂点に立ち優勝の栄冠を勝ち得たのは養命酒製造株Bチーム、次いで救心製薬(株)Aチームが準優勝という結果で



惜しくも準優勝の救心製薬(株)Aチーム

優勝に輝いた
養命酒製造(株)Bチーム

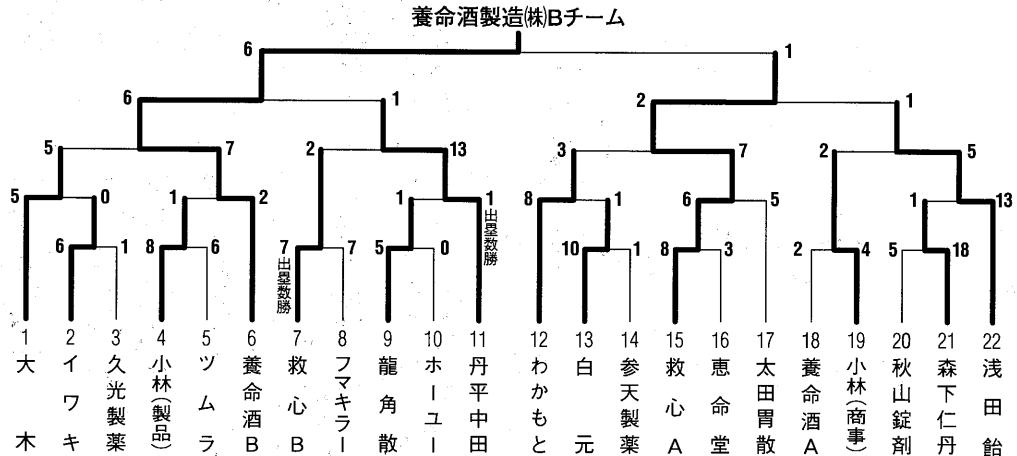


した。選手の皆様、ご苦労様でした。次回のご健闘を祈念しております。

優 勝：養命酒製造(株)Bチーム

準優勝：救心製薬(株)Aチーム

三 位：株浅田飴チーム
丹平中田(株)チーム



■薬業四団体受賞者祝賀会

(11月30日、赤坂プリンスホテル)



厚生大臣表彰を受けられた
(株)トクホン 鈴木規允社長(現取締役)
参天製薬(株) 大島美治相談役
役員会長(左より3番目)



■平成12年薬業四団体新年賀詞交歓会

鏡開きをされる塩澤理事長
(1月6日、赤坂プリンスホテル)



■第4回消費者対応担当者研修会



具体的な事例紹介を中心としたパネルディスカッションでは、大変有意義な情報交換が行われました。
(12月15日、東京薬業健保会館)

■受賞者祝賀会兼忘年会

(12月9日、組合会議室)



厚生大臣表彰を受けられた
(株)トクホンの鈴木
規允社長(現取締役)



厚生大臣表彰を受けられた
参天製薬(株)の大島
美治相談役名誉会長



組合員の多数出席により
盛会だった組合関係受賞
者祝賀会兼忘年会

■平成12年全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会

(1月6日、
赤坂プリンスホテル)



乾杯の音頭をとられる
塩澤理事長



事務局だより

●10月6日

第57回家庭薬軟式野球大会の参加22チームによる主将会議を開催し、試合日程その他について打ち合わせを行った。なお、試合は10月31日から開始し、11月28日に予定どおり終了した。

●10月28日

第10回GMP研修見学会が静岡県焼津市の山之内製薬(株)焼津工場で、組合員多数参加のもとに開催された。同夜は焼津のホテルで懇談会を開催し、相互のGMPに関する情報交換と親睦を深めた。

●11月30日

薬業四団体の平成11年度受賞者祝賀会が赤坂プリンスホテルで行われた。当組合関係の受賞者は、厚生大臣表彰の(株)トクホン社長(現取締役)鈴木規允殿と参天製薬(株)相談役名誉会長大島美治殿であった。

●12月9日

組合の事業活動をより一層活発化させるべ

く委員長会が開催された。種々意見交換を行った結果、必要ある場合には委員長が積極的に理事会に出席して詳細な説明を行うことや、他委員会に関連する事業活動については、関連合同委員会を開催して対処することとした。

●12月9日

当組合会議室で理事会終了後、組合関係受賞者祝賀会兼忘年会を開催、組合員多数が出席した。

●1月6日

正午より薬業四団体による新年賀詞交歓会が赤坂プリンスホテルで、また、午後2時より同所において全国家庭薬メーカー・卸合同新年互礼会が盛大に行われた。

◇人事異動

組合事務局職員坂上リウ殿が1月13日定年により退職し、新たに1月17日付で永原恵子殿が採用された。

- ミレニアムという名の、時代またぎ。地球上の全人間の何%が、これを経験したか、また、するか、を考えれば、もう少し高い興奮レベルでも良かったように思います。水を指したのは、やはりY2K問題でしょうか。
- コンピュータは完全でも万能でもない。何やら脆弱な側面を持っています。特集の座談会にもあるように「一つのツール」と認識して、人間ならではの賢い使い方を確立してい

く必要があると思います。当初、軍事目的で開発されたインターネットが、料理レシピを手に入れるために使われることもある現在。なかなか、乙なものです。我が組合も、賢明で素敵な使い方をしていきたいものです。

- 辰年→建つ年、立つ年。酒を断つ、煙草を断つ年にしてもいいですね。波風の立つ年、腹の立つ年にはしたくないです。

(養命酒製造株式会社・伊沢)

かていやく

通巻66号 2000年1月20日

編集人：東家協広報委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104-0061東京都中央区銀座8-18-16

☎ 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

<http://www.tokakyo.or.jp/>

